

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

石川県七尾市

○学校名

七尾市立田鶴浜中学校

○学校のURL

<http://www.city.nanao.lg.jp/hamatyu/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】各学年 2 学級 【特別支援学級】 1 学級 【合計】 7 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 1 5 3 人（平成 2 4 年 1 1 月 1 日現在）
（内訳： 1 年生 5 1 人， 2 年生 6 0 人， 3 年生 4 2 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

1. 高い知性を持ち，創造性に富んだ生徒を育てる。
2. 豊かな感性を持ち，思いやりのある生徒を育てる。
3. たくましい身体を持ち，実践力のある生徒を育てる。
4. 文化と伝統を尊重し，自然や命を大切にする生徒を育てる。

【人権教育の目標】

1. 人権の意義や内容について理解するとともに，自他のよさを認め合い，思いやりの心を持って行動できる生徒の育成
2. より良い人間関係を築きながら，互いを認め合う中で，自分への自信を深め，新たな活動への意欲を向上させていくことができる生徒の育成

○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題・副題】

学び合い 認め合い 高め合う 生徒の育成
～心の響き合いと絆づくりを意識した人権教育指導の在り方～

人権教育の指導方法の基本原則である「協力」「参加」「体験」の 3 つの学習形態や活動形態を意識した取組を，次の 3 つの柱を設定し進めた。

○生徒指導の3つの視点を生かした授業や領域（人権教育の基本指導）

- ・「心の響き合い」を目指した授業等の実践

授業のねらいに迫るために「共感」「説明」「活躍」する場を設定

- ・主体性を大切にした生徒会活動や体験活動

学校をより良くしていくことや地域に役に立つことを考え行動する場を設定

○人権を学び、人権感覚を高める場の設定（人権教育の直接指導）

- ・人権についての理解を深め、知識を学ぶための機会

目指す姿を共通理解をするための人権集会、人権の日の設定

○人間関係づくりの場の設定（人権教育の基盤指導）

- ・地域とのふれあいを大切にした交流やボランティア活動

田鶴浜中学校の生徒であることの自覚と誇りを持つための場の設定

人の役に立とうとする意識を持つための場の設定

- ・生徒が主体となる集会活動

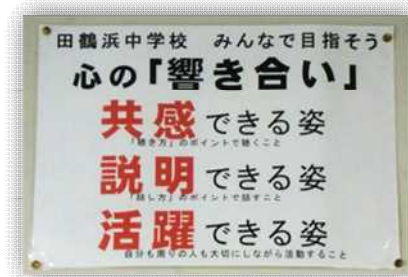
自分たちをより良くしていく意識を持ち、みんなで関わっていく意識を高めるための場の設定

3. 特色ある実践事例の内容

◆ 「心の響き合い」を目指す授業づくりの取組

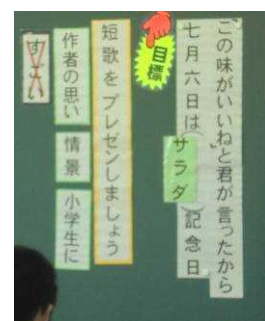
生徒指導の3つの視点である「自己決定」「自己存在感」「共感的な人間関係」を授業や領域に生かす取組を行った。知識として人権を学んだうえで、さらに生徒指導の3つの視点を生かしていくことが人権教育の浸透につながると考えた。

この3つの視点を、「心の響き合い」の3つの姿である、「共感できる姿」「説明できる姿」「活躍できる姿」につなげた。本時のねらいに迫る活動に、この「心が響き合う姿」をしっかりとイメージした授業設計をしながら、授業実践を積み重ねた。



① 「つかむ」段階

導入での意欲づけから、「なぜ」「どうして」という課題意識につながり、生徒が課題を解決する必要性を感じ、「考えたい」「調べてみたい」という思いにつながるような流れになるよう工夫した。



② 「考える」段階

話し合い学習や学び合いの前提として、まず生徒が自分の考えをしっかりと持つことが大切である。そのための手だてとして、見通しの持ちやすい学習課題、個に応じた支援、ペアやグループ、周りとの交流など、様々な学習形態を工夫した。



③ 「深める」段階

学習規律（5つのルール 5つのマナー）や「聴き方 話し方」の徹底により、お互いを尊重する雰囲気の中で学習を進めていくことを大切にした。さらに、教師の肯定的な声かけや支援により、生徒が、自分が認められた実感を得ることができ、それが学習意欲の向上につながっていくように心がけた。



また、意見や考えを深めるため、意見や考えの「出し合い」に終わることのないような教師側の問いかけなどについて授業研究を重ねた。

④ 「まとめる」段階

生徒とのやりとりの中から、授業のねらいに迫るためのキーワードを拾い上げて黒板に明示し、本時のねらいを達成するための「まとめ」を、生徒の言葉によるキーワードをつなげてできるように実践を重ねた。



教科によっては、生徒それぞれの思いがまとめになる場合も考えられるが、できるだけ生徒の言葉で「まとめ」ができる授業づくりを目指して取組を進めてきた。

◆ 人権について直接学ぶ機会や認め合う場を設定する取組

学校生活の中で偏見や差別に関する様々な問題が起こった時に、迅速かつ適切に指導していくことはもちろん必要なことである。その一方で、生徒が人権そのものを学ぶ機会を充実させる必要があり、各教科や道徳の時間で人権に関わる内容を学習するほか、人権感覚を高めることをねらいとした活動を設定することで、積極的な生徒指導を充実させる取組を行った。

① 人権集会

人権について考えながら、自分たちの目指す姿を共通理解するための全校集会を定期的に行った。集会後の感想や定期的に行うアンケート結果を伝えながら、共通理解と一体感を向上させていくことができた。



② 人権の日

毎月15日を「田鶴浜中 人権の日」に設定し、人権作文にふれ、感想を寄せ合う取組を継続した。人権について考える機会となり、自分を振り返る場につながった。



③ 心をつなぐ木

生徒会の発案で、友だちへの感謝の気持ちや良いところを互いに葉に書き、認め合う取組を継続した。1年間かけて、たくさんの葉が貼られ、成長していく木。感謝の言葉や認められた実感は、次への新たな意欲へとつながり、より良くなっていくための原動力になった。



④ 頑張ったひと

運動会や学校祭といった学校行事などの後、準備期間も含めて頑張っていた人をクラス内外から名前を挙げ、頑張っていた理由を添えて掲示した。認め合う中で、いろいろな気づきが生まれる掲示物になった。継続して行きたい取組である。



◆ 地域の方々とふれあいを大切にしたい取組

人権教育を推進していく上で重要なことに、自他を大切にしながら行動することがあげられる。相手を尊重したり、相手がどう受け取るのかを考えながら行動したりすることは、人と人との関わりにおいて大切である。自分から考えて積極的に行動を起こすことができれば、それが相手に伝わり、感謝のことばとなる。そのことばが自信や新たな活動への意欲につながっていく。そういった体験を数多く重ねることで、より良い人間関係を築けるよう取り組んだ。

① ひとり1ボランティア活動

人の役に立つ経験を通して自己有用感を持ち、その後も相手の立場を考えた行動や思いやりのある行動を進んで行えるようになるため、本校では夏休みを中心に、地域の事業所や公民館、保育園などの施設と連携しながら、この10年来、継続して「ひとり1ボランティア活動」に取り組んでいる。



② ふれあい集会

毎年の恒例行事として、6月に、地域の「グラウンドゴルフの達人」であるお年寄りを招待し、グラウンドゴルフの教えを受けながら、縦割り班対抗のグラウンドゴルフ大会を行っている。地域のお年寄りも中学生との交流を楽しみにして



いて、有意義な交流ができている。計画から礼状に至るまで、生徒主体の活動になっている。来年度以降も活動を継続していく予定であるが、地域の方々とのふれあいのあり方については、今後いろいろな方法を模索していきたい。

◆ 生徒が主体となる集会活動の取組

「自分たちをより良くしていく」「みんなに関わる」ことを通して、自分たちの現状を認識し、気づき、課題を把握し、今後の目指す姿について考える機会として、生徒による主体的な集会活動の場（絆集会）を設定した。「口だけ」「人ごと」にならないように、日々の積み重ねの大切さを自分たちから考え実行できる生徒の育成を図るとともに、生徒が自分の思いを伝え、相手の思いを大切にしながら話し合い活動に参加し、自分の考えを再構築するという、深まりのある活動になるよう工夫した。



1学期に「授業の様子をふり返り、互いをより高めていこうとする」をねらいとした学年・全校集会，夏休みに「戦争について知り，これから自分たちができることを考える」をねらいとした全校集会，2学期には運動会や学校祭を終え，「互いを認め合う中で，田鶴浜中学校の大切な一員であることの実感を得る」ための全校集会，さらに，「学校のいいところを探しながら，みんなですばらしい学校づくりをしていく」ための学級・学年・全校集会を計画し，実施した。

活動例：「めっちゃいい浜中（はまちゅう）」

・活動のねらい

「めっちゃいい浜中にするために自己の役割や集団による取組を考え，全校生徒で話し合ってきめる」

・活動の流れ

リーダー会（生徒会役員・学級役員）

→学級会活動→リーダー会→学年集会

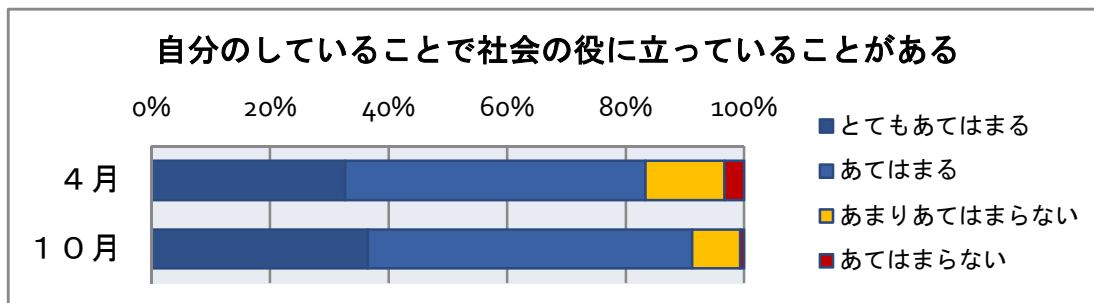
→リーダー会→全校での絆集会

各学級，各学年の実態を踏まえ，課題を考え直しながら，自分からこの学校をより良くしていこうという意識を高め，みんなと関わりながら絆を深めていけるよう，教師は後方支援を心がけていく。リーダー会を中心に，話し合い活動を充実させ，本音で話し合える雰囲気づくりに取り組ませた。

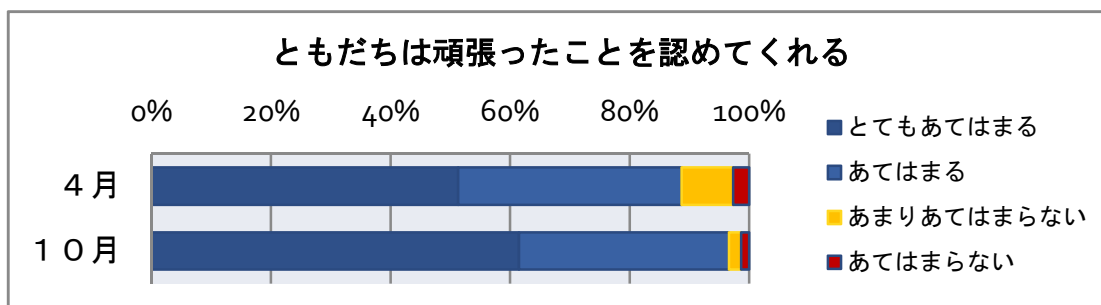
4. 実践事例の実績、実施による効果

○取組の実績

アンケート結果より、自己有用感につながる項目について肯定評価が上昇した。ボランティア活動や「活躍」を意識した行動で、人の役に立つ実感を得て、さらなる意欲につながっている。



また、安心感につながる項目について肯定評価が上昇したことも顕著であった。いろいろな認め合う取組を通じて、自分の頑張りが他者に受け入れられることで、自分もまた、他者を大切にしようとする心につながっている。



しかし、どの項目についても、極端に評価の低い生徒がいることを軽視せず、生徒の思いに寄り添った支援を継続して行く必要がある。人権に関するアンケート結果の推移を、個別に検証し、全教職員で共通理解を図り、そうした生徒には、特に肯定的な評価を心がけていくことを継続していった。

5. 実践事例についての評価

○取組についての評価

- ・ 誰かの役に立とうとする経験で自己有用感や満足感を得ることができたこと
- ・ 表面的ではなく、心の内面からの発言による話し合い活動が増えたことで、表現力の向上が見られたこと
- ・ 互いを尊重し合う落ち着いた学校生活から、安心感が増し、人権感覚の向上が見られたこと
- ・ 高め合う雰囲気をつくり出すことで学習意欲の向上が見られたこと

○保護者や地域住民からの反応

- ・ 校外学習や地域でのあいさつがとても良いとの評価を得たこと
- ・ 絆集会活動で「身近な人から」笑顔であいさつをしていくことが大切であると全校生徒で共通理解を図っていたこと
- ・ ボランティア活動での積極的な態度が評価され、今後も期待されていること

○課題

- ・ 今後も全教育活動全体を通した取組をしっかりと継続していくこと
- ・ 前例踏襲にこだわらず，状況に応じたより良い活動になるように工夫改善をしていくこと
- ・ 人権感覚や自己有用感の低い生徒だけではなく，一人ひとりの生徒にあった人権教育を心がけ，実践していくこと
- ・ 学習意欲の向上を学力向上につなげること

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

七尾市立田鶴浜中学校

「協力」、「参加」、「体験」という人権教育における指導方法の基本原則を念頭に、「人権教育の基本指導」、「人権教育の直接指導」、「人権教育の基盤指導」の3つの柱を設定して具体的な学習形態や活動形態へと結び付けた事例である。

知識だけではない「心の響き合い」を目指す授業づくり（人権教育の基本指導）に取り組み、人権についての理解を深める「人権集会」や「人権の日」、他者の良さを認める「心をつなぐ木」や「頑張ったひと」の取組（人権教育の直接指導）を行うとともに、地域の施設等と連携して行う「ひとり1ボランティア活動」、地域の高齢者との「ふれあい集会」、生徒が主体の「絆集会」の取組は、人権教育の基盤指導として位置づけられており、すべての取組は「協力」「参加」「体験」の基本原則に沿ったものとなっている。

人権教育における指導方法の基本原則を学校が設定した指導方針の中に取り入れた事例として参考になる。